

ヘルパーステーションえにし
運営規程

(事業の目的)

第1条 株式会社縁が開設するヘルパーステーションえにし(以下「ステーション」という。)が行う障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(以下「法」という。)に規定する指定居宅介護(以下、「指定居宅介護」という。)の事業の適正な運営を確保するために必要な人員及び管理運営に関する事項を定め、利用者に対する適切なサービスを提供することを目的とする。

(運営の方針)

第2条 ステーションが実施する事業は、利用者が居宅において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、その利用者の身体その他の状況及びその置かれている環境に応じて、次に掲げる援助を適切かつ効果的に行う。

- (1) 指定居宅介護については、入浴、排せつ及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事並びに生活等に関する相談及び援助その他の生活全般にわたる援助
- 2 ステーションは、利用者又は障害児の保護者の意思及び人格を尊重し、常に利用者又は障害児の保護者の立場に立ってサービスの提供を行う。
- 3 ステーションは、利用者の人権の擁護、虐待の防止等のため、必要な体制の整備を行うとともに、従業者に対し、研修を実施する等の措置を講ずる。
- 4 ステーションは、大分県指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例(平成十七年障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第二百二十三号)その他関係法令を遵守し、事業を実施する。

(事業所の名称及び所在地)

第3条 事業を行う事業所の名称及び所在地は、次のとおりとする。

- ① 名称 ヘルパーステーションえにし
- ② 所在地 大分県宇佐市大字東高家1099番4

(従業者の職種、員数及び職務の内容)

第4条 ステーションに勤務する従業者、員数及び職務の内容は次のとおりとする。

職 種	資 格	常勤 専従	常勤 兼務	非常勤 専従	非常勤 兼務	備 考
管理者兼 サービス提 供責任者	介護福祉士	—	1名	—	—	訪問介護員と兼務
訪問介護員	実務者研修修了者	2名	—	—	—	
訪問介護員	介護福祉士	—	—	1名	—	

(1) 管理者兼サービス提供責任者 介護福祉士1名(常勤職員、訪問介護員と兼務)

管理者は、ステーションの従業者の管理及び業務の管理を一元的に行うとともに、従業者に法令等を遵守させるため必要な指揮命令を行う。

サービス提供責任者は、居宅介護計画等の作成に関する業務のほか、事業所に対する指定居宅介護等の利用の申し込みに係る調整、従業者に対する技術指導等のサービスの内容の管理等を行う。

- (2) 訪問介護員等 介護福祉士2名(常勤職員1名、管理者、サービス提供責任者と兼務、非常勤職員1名)
実務者研修修了者2名(常勤職員2名)

訪問介護員等は、指定居宅介護の提供に当たる。

(営業日及び営業時間)

第5条 ステーションの営業日及び営業時間は、次のとおりとする。

- (1) 営業日:月曜日から金曜日までとする。ただし、12月31日から1月3日までを除く。
- (2) 営業時間 午前8時30分から午後5時30分までとする。
- (3) サービス提供日:日曜日から土曜日までとする
- (4) サービス提供時間:午前7時から午後8時までとする
- (5) 上記の営業日、営業時間のほか、電話等により、24時間連絡可能な体制とする。

(主たる対象者)

第6条 ステーションにおいてサービスを提供する主たる対象者は、次のとおりとする。

- (1) 居宅介護
①身体障害者②知的障害者③精神障害者④難病等対象者⑤障害児

(指定訪問介護の内容)

第7条 ステーションで行う指定居宅介護の内容は次のとおりとする。

- (1) 居宅介護計画の作成
① 身体介護
② 家事援助
③ 通院等介助

(内容及び手続の説明及び同意)

第8条 ステーションは、支給決定を受けた障害者又は障害児の保護者がサービスの利用の申し込みを行ったときは、利用申込者の障害の特性に応じた適切な配慮をしつつ、利用申込者に対し、運営規程の概要、従業員の勤務体制、その他サービスの選択に資すると認められる重要事項を記した文書を交付して説明を行い、サービスの提供の開始について利用申込者の同意を得る。

2 ステーションは社会福祉法77条の規定に基づき書面の交付を行う場合は、利用者の障害の特性に応じた適切な配慮をする。

(契約支給量の報告等)

第9条 ステーションは、サービスを提供するときは、サービスの内容、利用者に提供することを契約しサービスの量(以下「契約支給量」という。)その他の必要な事項(以下「受給者証記載事項」という。)を利用者の受給者証に記載する。

- 2 前項の契約支給量の総量は、その利用者の支給量を超えないものとする。
- 3 ステーションは、サービスの利用に係る契約をしたときは、受給者証記載事項その他の必要な事項を市町村に対し遅滞なく報告する。
- 4 前3項の規定は、受給者証記載事項に変更があった場合について準用する。

(通常の事業の実施地域)

第10条 通常の事業の実施地域は、宇佐市、豊後高田市の区域とする。

(提供拒否の禁止)

第11条 ステーションは、正当な理由なくサービスの提供を拒まないものとする。

(連絡調整に対する協力)

第12条 ステーションは、サービスの利用について市町村又は一般相談支援事業若しくは特定相談支援事業を行う者が行う連絡調整に、できる限り協力する。

(サービス提供困難時の対応)

第13条 ステーションは、通常の事業の実施地域等を勘案し、利用申込者に対して自ら適切なサービスを提供することが困難であると認めた場合は、適当な他の障害福祉サービス事業所等の紹介その他の必要な措置を速やかに講ずる。

(受給資格の確認)

第14条 事業所は、サービスの提供を求められた場合は、その者の提示する受給者証によって、支給決定の有無、支給決定の有効期間、支給量等を確認する。

(介護給付費の支給の申請に係る援助)

第15条 ステーションは、当事業所が行う指定障害福祉サービスに係る支給決定を受けていない者から利用の申込みがあった場合は、その者の意向を踏まえて速やかに介護給付費の支給の申請が行われるよう必要な援助を行う。

2 ステーションは、支給決定に通常要すべき標準的な期間を考慮し、支給決定の有効期間の終了に伴う介護給付費の支給申請について、必要な援助を行う。

(心身の状況等の把握)

第16条 ステーションは、サービスの提供に当たっては、利用者の心身の状況、その置かれている環境、他のサービス又は福祉サービスの利用状況等の把握に努める。

(サービスの提供の記録)

第17条 ステーションはサービスを提供した際は、サービスの提供日、内容その他必要な事項をサービスの提供の都度、記録する。

2 ステーションは、前項の規定による記録に際しては、利用者(障害児の場合はその保護者。以下、「利用者等」という。)からサービスを提供したことについて確認を受ける。

(指定障害福祉サービス事業所等との連携等)

第18条 ステーションは、サービスを提供するに当たっては、地域及び家庭との結び付きを重視した運営を行い、市町村、他の指定障害福祉サービス事業者等その他の保健医療サービスまたは福祉サービスを提供する者との密接な連携に努める

2 ステーションは、サービスの提供の終了に際しては、利用者又はその家族に対して適切な援助を行うとともに、保険医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努める

(身分を証する書類の携行)

第19条 ステーションは、従業者に身分を証する書類を携行させ、初回訪問時及び利用者又はその家族から求められたときは、これを提示すべき旨を指導する。

(指定居宅介護等の基本取り扱い方針)

第20条 指定居宅介護等は、利用者が居宅において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者の身体その他の状況及びその置かれている環境に応じ適切に提供

する。

2 ステーションは、その提供する指定居宅介護等の質の評価を行い、常にその改善を図る。

(指定居宅介護等の具体的取り扱い方針)

第21条 従業者が提供する指定居宅介護等の方針は、次の各号に掲げるところによる。

- (1) 指定居宅介護等の提供に当たっては、居宅介護計画等に基づき、利用者が日常生活を営むのに必要な援助を行う。
- (2) 指定居宅介護等の提供に当たっては、懇切丁寧に行う事を旨とし、利用者又はその家族に対し、サービスの提供方法等について、理解しやすいように説明を行う。
- (3) 指定居宅介護等の提供に当たっては、介護技術の進歩に対応し、適切な介護技術をもってサービスの提供を行う。
- (4) 常に利用者の心身の状況、その置かれている環境等の的確な把握に努め、利用者又はその家族に対し、適切な相談及び助言を行う。

(居宅介護計画等の作成)

第22条 サービス提供責任者は、利用者又は障害児の保護者の日常生活全般の状況及び希望等を踏まえて、具体的なサービスの内容等を記載した居宅介護計画等を作成する。

- 2 サービス提供責任者は、前項の居宅介護計画等を作成した際は、利用者及びその同居の家族にその内容を説明するとともに、居宅介護計画等を交付する。
- 3 サービス提供責任者は、居宅介護計画等作成後においても、居宅介護計画等の実施状況の把握を行い、必要に応じて居宅介護計画等の変更を行う。
- 4 第1項及び第2項の規定は、前項に規定する居宅介護計画等の変更について準用する。

(介護等の総合的な提供)

第23条 ステーションは、指定居宅介護及び指定重度訪問介護の提供に当たっては、入浴、排せつ、食事等の介護、外出時における移動中の介護又は調理、洗濯、掃除等の家事を常に総合的に提供するものとし、特定の援助に偏らないものとする。

(同居家族に対するサービス提供の禁止)

第24条 ステーションは、従業者に、その同居の家族である利用者に対する居宅介護等の提供をさせないものとする。

(利用者負担額等の受領)

第25条 ステーションは、サービスを提供した際は、利用者等からそのサービスに係る利用者負担額の支払いを受ける。

- 2 ステーションは、法定代理受領を行わないサービスを提供した際は、利用者等からそのサービスに係る指定障害福祉サービス等費用基準額の支払いを受ける。
- 3 ステーションは、前2項の支払を受ける額のほか、利用者等の選定により通常の事業の実施地域以外の地域において指定居宅介護等を提供する場合、それに要した交通費の額は、その実費を利用者等から徴収する。
通常の事業の実施地域を越える地点から1kmあたり20円
- 4 ステーションは、前3項の費用の額の支払を受けた場合は、その費用に係る領収証を利用者等に対し交付する。
- 5 ステーションは、前3項の費用に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ、利用者等に対し、サービス内容及び費用について説明を行い、利用者等の同意を得る。

(利用者負担額に係る管理)

第26条 ステーションは、利用者等の依頼を受けて、その利用者が同一の月に当ステーションが提供するサービス及び他の指定障害福祉サービス等を受けたときは、そのサービス及び

他の指定障害福祉サービス等に係る指定障害福祉サービス等費用基準額からそのサービス及び他の指定障害福祉サービス等につき法第29条第3項(法第31条の規定により読み替えて適用される場合を含む。)の規定により算定された介護給付費又は訓練等給付費の額を控除した額の合計額(以下「利用者負担額合計額」という。)を算定する。この場合において、当ステーションは、利用者負担額合計額を市町村に報告するとともに、利用者等及び他の指定障害福祉サービス等を提供した指定障害福祉サービス事業者等に通知する。

(介護給付費の額に係る通知等)

第27条 ステーションは、法定代理受領により市町村からサービスに係る介護給付費の支給を受けた場合は、利用者等に対し、その額を通知する。

2 ステーションは、法定代理受領を行わないサービスに係る費用の支払を受けた場合は、その提供したサービスの内容、費用の額その他必要と認められる事項を記載したサービス提供証明書を利用者等に対して交付する。

(利用者に関する市町村への通知)

第28条 ステーションは、サービスを受けている利用者等が偽りその他不正な行為によって介護給付費の支給を受け、又は受けようとしたときは、遅滞なく、意見を付してその旨を市町村に通知する。

(緊急時の対応)

第29条 従業者は、現にサービスの提供を行っているときに利用者に病状の急変が生じた場合その他必要な場合は、速やかに医療機関への連絡を行う等の必要な措置を講ずる。

(事故発生時の対応)

第30条 ステーションは、利用者に対するサービスの提供により事故が発生した場合は、市町村、利用者の家族等に連絡を行うとともに、必要な措置を講ずる。

2 ステーションは、前項の事故の状況及び事故に際して取った処置について、記録する。

3 ステーションは、利用者に対するサービスの提供により賠償すべき事故が発生した場合は、損害賠償を速やかに行う。

(虐待の防止)

第31条 ステーションは、虐待の発生又はその再発を防止するため、次の各号に掲げる措置を講ずる。

(1) ステーションにおける虐待の防止のための対策を検討する委員会(テレビ電話装置等を活用して行うことが出来るものとする。)を定期的に開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図る。

(2) ステーションにおいて、従業者に対し、虐待の防止のための研修を定期的に実施する。

(3) ステーションは、利用者の希望や必要に応じて成年後見制度の利用を支援する。

(4) ステーションは、利用者及びその家族からの苦情処理体制を整備する。

(5) 前4号に掲げる措置を適切に実施するための担当者を置く。

(衛生管理等)

第32条 ステーションは、従業者の清潔の保持及び健康状態について、必要な管理を行う。

2 ステーションは、当ステーションの設備及び備品等について、衛生的な管理に努める。

3 ステーションは、感染症が発生し、又はまん延しないように、次の各号に掲げる措置を講ずる。

(1) ステーションにおける感染症の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会(テレビ電話装置その他の情報通信機器(以下「テレビ電話装置等」という。)を活用して行う事ができるものとする。)を定期的に開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底

底を図る。

(2) ステーションにおける感染症の予防及びまん延の防止のための指針を整備する。

(3) ステーションにおいて、従業者に対し、感染症の予防及びまん延の防止のための研修及び訓練を定期的実施する。

(掲示)

第33条 ステーションは、当ステーションの見やすい場所に、運営規定の概要、従業者の勤務の体制その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を掲示する。

2 ステーションは、前項に規定する事項を記載した書面をステーションに備え付け、かつ、これをいつでも関係者に自由に閲覧させることにより、同項の規定による掲示に代えることができる。

(身体拘束等の禁止)

第34条 ステーションは、サービスの提供に当たっては、利用者又は他の利用者の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為(以下「身体拘束等」という。)を行わない。

2 ステーションは、やむを得ず身体拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由その他必要な事項を記録する。

3 ステーションは、身体拘束等の適正化を図るため、次に掲げる措置を講ずる。

(1) 身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会(テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。)を定期的開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図る。

(2) 身体拘束等の適正化の為の指針を整備する。

(3) 従業者に対し、身体拘束等の適正化のための研修を定期的実施する。

(秘密保持)

第35条 従業者及び管理者は、正当な理由がなく、その業務上知りえた利用者又はその家族の秘密を洩らさないものとする。

2 ステーションは、従業者及び管理者であった者が、正当な理由なく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らすことがないよう、必要な措置を講ずる。

3 ステーションは、他の指定障害福祉サービス事業所等に対して、利用者又はその家族に関する情報を提供する際は、あらかじめ文書により利用者又はその家族の同意を得る。

(情報の提供等)

第36条 ステーションは、指定障害福祉サービスをりようしようとする者が、適切かつ円滑に利用することができるように、当ステーションが実施する事業の内容に関する情報の提供を行うよう努める。

2 ステーションは、当ステーションについて広告をする場合においては、その内容を虚偽又は又は誇大なものとししない。

(利益供与の禁止)

第37条 ステーションは、一般相談支援事業若しくは特定相談支援事業を行う者若しくは他の障害福祉サービスの事業を行う者等又はその従業者に対し、利用者又はその家族に対してその事業者を紹介することの対償として、金品その他の財産上の利益を供与しない。

2 ステーションは、一般相談支援事業若しくは特定相談支援事業を行う者若しくは他の障害福祉サービスの事業を行う者等又はその従業者から、利用者又はその家族を紹介することの対償として、金品その他の財産上の利益を収受しない。

(苦情処理に関する事項)

第38条 指定訪居宅介護等の提供に係る利用者からの苦情に迅速かつ適切に対応するために必要な措置を講じるものとする。

2 事業者は、提供した指定居宅介護等に関し、市町村が行う文書その他の物件の提出若しくは提示の求め又は当該市町村の職員からの質問若しくは照会に応じ、及び市町村が行う調査に協力するとともに、市町村から指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行うものとする。

3 ステーションは、提供した指定居宅介護等に係る利用者からの苦情に関して大分県社会福祉協議会が行う調査に協力するとともに、指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行うものとする。

(勤務体制の確保等)

第39条 ステーションは、利用者に対し、適切なサービスを提供できるよう、従業者の勤務の体制を定めておく。

2 ステーションは、当ステーションの従業者によってサービスを提供する。

3 ステーションは、従業者の資質の向上のために、研修(利用者の人権の擁護、虐待の防止等に関する研修及び利用者の障害の特性に関する理解を深めるために必要な研修を含む。)の機会を次のとおり設ける。

- (1)採用時研修 採用後6カ月以内
- (2)虐待防止に関する研修 年1回
- (3)権利擁護に関する研修 年1回
- (4)認知症ケアに関する研修 年1回
- (5)介護予防に関する研修 年1回

(職場におけるハラスメントの防止)

第40条 ステーションは、適切なサービスの提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であって業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業者の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化等の必要な措置を講ずる。

(業務継続計画の策定等)

第41条 ステーションは、感染症や非常災害の発生時において、利用者に対するサービスの提供を継続的に実施するための、及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画(以下「業務継続計画」という。)を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置を講ずる。

2 ステーションは、従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的実施する。

3 ステーションは、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行う。

(会計の区分)

第42条 ステーションは、ステーションごとに経理を区分するとともに、指定障害福祉サービスの事業の会計をその他の事業の会計と区分する。

(記録の整備)

第43条 ステーションは、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備する。

2 ステーションは、利用者に対するサービスの提供に関する諸記録を整備し、サービスを提供した日から5年間保存する。

(その他運営に関する重要事項)

第44条 ステーションは、その事業の運営に当たっては、大分県暴力団排除条例第15条第1号に規定する暴力団を利することとならないようにする。

2 この規定に定める事項のほか、運営に関する重要事項は事業者とステーションの管理者との協議に基づいて定める。

(附 則)

この規程は、令和6年12月1日から施行する。